

不服そうなたチャッド君の表情が、教室前面のスクリーンに大きく映し出された。ブルース君にバスケットボールを横取りされてしまったのだ。

「チャッド君はどんな気持ちかな」。中台生美教諭(35)が聞くと、児童からは「やな気持ち」「許せない」と声が上がった。昨年10月19日、東京都品川区立第二延山小学校2年3組で行われた暴力防止教育プログラム「セカンドステップ」の授業だ。

中台教諭は「『怒り』のサインが出ているね。怒ることは人間にとって当たり前です」とした上で、「『やられたらやりかえす』だと解決になりません。『ケンを避ける』ためにはどうすればいいかな」と問いかけた。

「落ち着きのステップ」と

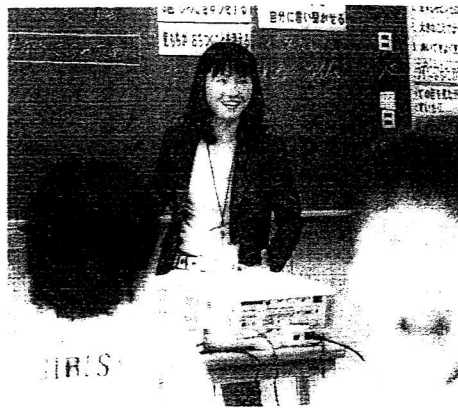


教育ルネサンス

No.1392

荒れない学校 2

「非暴力」は小学校から



セカンドステップ NPO法人「日本こどものための委員会」が、アメリカ・シアトル市で開発されたプログラムを翻訳し、日本に紹介した。試行時に調査した山形大学の宮崎昭教授によると、攻撃する態度が減るなどの効果があったという。「ファーストステップ」は、暴力の被害者にならないためのプログラム。

小昨京第
避ける東立
を受け日、区
力を生た日、校
「ケン授業を
の学2年19区小
年10月川山小
二延山小

男子児童が発言したのに続き、「前に習ったよ」と次々に意見が出る。「数字を逆から数える」「深呼吸する」「その場を離れる」。安全か、フェアかなど話し合い、「ブルース君に『一緒に遊ぼう』って言うてみようかな」とい

う解決案も最後に出た。品川区は2009年度から、同プログラムを区立全小学校38校に導入した。1、2年で計20時間。「気持ちや愛をわらう」「フェアとは」などの相互理解、「立ち止まって、落ち着いて、考えよう」とい

う問題解決法と「独り言」など怒りの扱いを順に学ぶ。和気正典・同区教育委員会小中一貫教育担当課長(57)は、「家庭の教育力が低下すると共に、集団遊びや大人と接する機会が減り、相手の表情から心理を読み取ったり、トラブルが起きた時に感情をコントロールしたりする方法がわからない子どもが増えてくる。どう対応すればいいかを小さいうちから教える」と

狙いを話す。◇ 「『死ぬ』『殺すぞ』と、簡単に口にする。子ども同士ですぐ殴り合う。これはあかん。何かを間違って覚えたのか」

数年前、兵庫のある小学校に赴任した校長は、子どもの状況に「ぐせんとした。早速、「社会で生きる力」などの授業を導入したところ、すぐかっとなる子が数か月で落ち着いたという。校長は「暴力をふるいそうになった時に『その場を離れる』などの方法を積み上げて学んでおけば、中学、高校と上がっても役に立つはず」と話す。

子どもたちが荒れる主な舞台は中学校。だが、相手を思いやり、暴力をふるわない気持ちで育てる教育は、小学校でも徐々に始まっている。

(京極理恵)